

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人陽彩こころの会
施設名	鳩ヶ谷キッズランド
報告者（役職）	森寺 恵理（施設長）
住所・連絡先	埼玉県川口市坂下町1丁目14-17
	☎ 048-286-0116
	E-mail info@hiirokokoro.com

○タイトル（保育計画）

ふわっと夢空間『陽彩(ひいろ)ブリッジ』

○主な助成備品

ネット遊具・柵等

### 1. 保育計画策定の目的

鳩ヶ谷キッズランドでは「遊びを通じてこどもを育てる」ことが、私たちの保育方針の根幹となっております。一年を通じて安心して使用できる遊び場があれば、私たちの目指す保育「よく遊べる子ども」「考えたこと、思っていることを言える子ども」が実現できると考え、室内遊具を設置したいと考えました。

### 2. 具体的な実施内容

- ・ 4～5歳児室は、99.2㎡の広さで、天井も高く、日光もふんだんに取り入れられる開放的な部屋です。ホールも兼ねているこの部屋に遊具を設置しました。
- ・ 『陽彩(ひいろ)ブリッジ』は、部屋の端から端まで移動することができるネットの『橋』と、垂直移動ができる昇降ネットの『虹』、柵上利用の隠れ家『雲』の3つで構成されています。
- ・ 個々の子どもに育ちつつある心情、意欲、体力面に対して、経験させたい活動を幅広く設定でき、保育環境や保育者の援助をスムーズに整えられるようにしました。
  - ① 安全・安心できる環境・・・転落防止
  - ② 発達に応じた環境・・・乗る、掴まる、揺れる、空間を歩く
  - ③ 興味や欲求に応じた環境・・・高さ、奥行き
  - ④ 課題性をもつ環境・・・課題発見と成功体験



### 3. その成果と評価

今回設置させていただいたネット遊具により、子どもたちは天候に左右されず、一年を通じて体を動かすことができるようになり、子どもたちの心と体力は確実に育っていると実感しています。

『陽彩(ひいろ)ブリッジ』のねらい

- ① 運動を通じて、健康な心と体を育てる
- ② 空間的な動きにより、豊かな感性を育てる
- ③ 同じ遊具で遊び、友だちとの協同性を育てる

においては、年齢別に想定以上の成果が得られています。また、保育者においては、子どもの体の発達

の過程をゆっくり観察することができます。地上(床)の活動においても、この発達の段階を踏まえた活動として活かされています。



#### <年齢別ねらいと成果>

1歳児・・・虹の下部(かご)に乗り、揺れに身を任せよう♪

(心と体) 地面から足が離れて、心地よい揺れに胎児のような安心感を抱く

【成果】当初自ら乗れた子0人⇒2月時点15人(100%)

コロナ禍において、ブランコなどの遊具経験が持てない中、ネット空間で『浮く』『揺れる』感覚を体験できたことは、この時期の発育上、意義あるものとなった。

この体験を初めて味わう子どもが大半であり、ネット遊具のおかげであると実感している。

春は見ているだけであった子どもも、秋には全員がネットのかごに座れるようになり、『揺れ』や『浮く』感覚を少しずつ楽しめるようになった。

今ではネットを『つかみ』、上を目指して身体を起こす動作をする子どももいるが、揺れるかごの中での立ち上がりは、バランスと腕の引き上げと足裏のネットの上でのふんばりの力を要するため、成功している子どもは半数である。



2歳児・・・虹で高みを目指せ!

(心と体) ネットを掴み、身体を引き上げることで、腕力・脚力・体幹を鍛える

一段一段、高いネットを目指して挑戦することで、「自分でやりたい」気持ちと、達成感を味わう

(感性) 到達した橋からの景色は普段と異なり、開放感やわくわく感を味わう

【成果】当初自ら登れた子1人(4%)⇒2月時点23人(100%)

ネットに登る遊び経験を通して、『腕力』『脚力』を養うことができたこと、登り方を観察し自分で習得する体験ができたことは、この時期の発育上必要な達成感を味わえる意義あるものとなった。

この体験をした子どもが、地上において、ネット上の移動動作につながる『高這い』で創作遊びをしていたことは、ネット遊具を設置した成果のひとつである。

ネットの柱（垂直階段）は、2歳児にとって軽く上がれる高さではない。軽々と登っていく幼児の様子をじっと観ていたひとりが、上腕に重心をかけ上半身の力だけでよじ登ったことをきっかけに、ひとり、またひとりと登ることができるようになった。



上に到達した子どもたちは、登れた喜びもつかの間、次の至難が待ち受けていた。

『高さ』と『揺れ』である。友達が上がってくるたびに、自分の意思と関係なく揺れる為、ネットを力強く掴み、座ったまま全身に力を入れてバランスを取っている。それでも写真を向けると笑顔で応えていた。怖いけど楽しい。初めての体験である。

地上に降りては動物ごっこが流行った。つま先で力強く床を蹴る『高這い』で思い思いの方向に部屋中を素早く動き回っていたが、衝突はしていなかった。これもネット遊具で養った、腕の力、脚の力、視野の広がりの効果と感じている。

### 3歳児・・・橋を渡ろう！

（心と体）揺れる橋を渡ることで、足を踏ん張りバランス感覚を養う

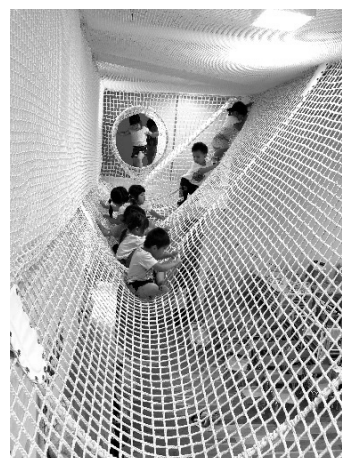
（感性）一步一步踏みだすごとに揺れ、ふわっとした浮遊感を味わう

【成果】当初橋を立てて渡れた子0人（0%）⇒2月時点23人（100%）

揺れるネットの上をバランスをとりながら渡る経験で、ネット空間で『浮く』『揺れる』感覚を体験できたことは、3歳児にとって意義あるものとなった。

この体験から、浮遊感を味わい、揺れに踏ん張り、倒れないようにと全身を使いバランスを取ることで体幹が鍛えられたことは、予想以上の成果となった。

3歳児といっても、ネットの柱（階段）は容易に上がれる高さではない。当初はネットを掴み、肩の高さまで脚を上げ、段に脚先をひっかけた形で体を引き上げて登っていた。橋の上に立ち、橋側面のネットに登れるようになる頃には、柱の壁ネットの網目を利用して、もっと楽に柱を昇れることに気づく。



この年齢だけではないが、子どもたちは上の年齢の行動をよく観て学ぶ様子が見られる。4～5歳児たちが、「柱の中で子どもたちがすれ違おうとぶつかって危ないから、ひとりずつ昇り降りするべきだ」と、話し合った。いつの間にか、この昇降ルールは、3歳児にも受け継がれ、順番良く登っている。

子どもは子どもから学ぶことを保育者が実感できるのも、このネット遊具の副次的効果である。

#### 4～5歳児・・他の室内遊具と組み合わせ、サーキットコースに挑戦！

(心と体) 他遊具と組み合わせることで全身を動かし、バランス感覚・柔軟性を養う

サーキットコースは子どもの好きな回遊性があるので集中力が育つ

(感性) 高低差のある遊びを通して、空間認識力を養う

(協同性) サーキットをチーム単位のゲームにすることで、子どもたちは互いの体力の差を知り、他者を思いやり、励ましあい、やり遂げるようになる

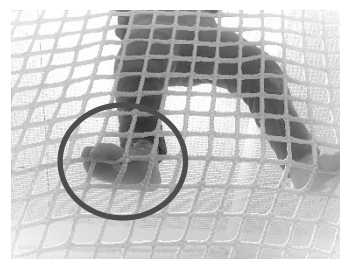
【成果】当初駆けっこで転ぶ子、ぶつかる子が7人(23%)⇒2月時点0人(0%)

ネット遊具での運動遊びを通じて『空間認識』を養うことができたことは、実り多いものとなった。地上ではできないような高いところからの『転がり落ちる』『飛び降りる』体験を通して、危険を回避する能力が身に付いたことは、大きな成果と言える。

ネットの上では、子どもたちの身体能力の差で子どもたちの動きが制限される。ときにこの能力の差は危険な状態を生み出す。しかし、子どもたちはお互いの『できること』を認め合い、危険がないよう話し合っていた。

ネット遊具は、遊びのアイデアが生まれやすい環境のようである。横になってくつろいで談笑。雲の中で繰り広げられるお城ごっこ。ネットの壁に登り、高いところから転がり落ちる。飛び降りるなど。

ネットの壁で体をしっかり支えるには、足の裏を柔らかく、そして力強く踏ん張る必要がある。いつしか子どもたちの足は、写真のようにネットを足指で掴めるまでに進化していた。



このように身体能力が高まり、園庭での駆けっこで転ぶ子、ぶつかる子が激減したことも、ネット遊具の遊びの効果と感じている。

#### 4. 今後の課題と展望

今回ネット遊具を設置させていただいたことで、地上に限られていた保育スペースが空間にも広がり、子どもに育ちつつある心情や意欲、体力面に対して経験させたい活動を幅広く設定することができました。日々運動遊びを続けることで、子どもたちの体幹やバランス感覚、柔軟性はさらに育っていくことでしょう。

保育者は、子どもたちの成長を発見し、地上の活動においてもその能力を活かしていく環境設定を考えていく必要があります。

今後、このネット遊具が目指していくものは、以下に記します。

### **ふわっと夢空間**

『陽彩(ひいろ)ブリッジ』は、すべての子どもたちの持っている能力や特徴「できること」を理解し、挑戦できる要素が含まれています。子ども自ら考え行動することで、思いやりと優しさ、困っているときに助けを求められる勇気が育つ空間になります。

### **陽彩とともに**

保護者の方は子どもと離れて働いている時間に、子どもが保育園でどう過ごしているのか、とても気になります。保護者のそのような思いを大切に受け止め、子どもたちの取り組んだことをお伝えしています。

『陽彩(ひいろ)ブリッジ』の魅力を感じた子どもたちが、いつも明るく笑顔で過している姿を通して、保護者は安心して子どもを保育園に預けることができるでしょう。

### **集まれ！陽彩っこ**

子育て支援で地域の親子、学校のない日の小学生など、地域の子どもたちに『陽彩(ひいろ)ブリッジ』を開放し、地域の高齢者にサポートしていただくことで、多世代にわたる地域交流の具体的な道具にしていきたいと考えています。

また、風船などを配置することで、アミューズメントパークのようにもなり、七夕には飾りつけをし、あるいは恐竜の絵を飾ればアドベンチャーパークのようにもなり、わくわくする空間を演出し、末永く地域に愛される遊具として活躍することでしょう。

このように、それぞれの子どもの年齢・体力・こころに合わせた楽しみ方ができるのが、ふわっと夢空間『陽彩ブリッジ』の魅力になると考えています。

以上